

14	学校法人 京急学園 京急幼稚園	20～22
----	-----------------	-------

## 平成22年度研究開発実施報告書（要約）

### 1 研究開発課題

発達年齢に即した活動と教師のかかわりを探求し、幼稚園から小学校への円滑な移行を図るための教育課程に関する研究開発。

### 2 研究の概要

本研究は幼稚園生活の全体を通した子どもの遊びや学びの連続性と小学校教育へのスムーズな接続を考えた幼稚園教育の在り方を検討する。先行研究（研究1）から、5歳児の幼稚園教育要領のねらいの達成が明らかにされたことを踏まえ、本研究は、①特定の子どもの3年間の行動観察記録、②3学年における行事・活動内容等のトピック・ウェブ、③教師の活動記録、④保護者による家庭における子どもの成長記録、⑤横浜市金沢区幼保小連携教育事業などをまとめ、3年間の幼稚園生活における子どもの遊び、学びへの導き、子どもの興味や生活の連続性と幼稚園教育要領との関係を追求し、接続期に必要なアプローチカリキュラムとスタートカリキュラム理解に向けての幼稚園教師の捉え方とカリキュラム開発について検討する。

### 3 研究の目的と仮説等

#### 1) 研究仮説

本研究の幼稚園カリキュラムは、教師たちが組織化・体系化を図り、実践を通して子どもの遊びや学びを進化させていく教育活動の源（佐藤、2010）として捉え、幼稚園教育要領のねらい及び内容は日々の保育や行事・活動内容等から達成するものと仮定している。本研究は、3年間における園生活の子どもの姿、子どもが体験する行事や主な活動内容、教師のかかわり、子どもの姿からみた保護者の幼稚園教育理解などを縦断的に追跡し、公立小学校との連携を通して幼小接続に必要な幼稚園教師の捉え方の修正を図っている。

#### 【手段】

本研究は平成12年度(2000年)からスタートした本園の「園づくりプロジェクト」(研究4)の実践とプロジェクト・アプローチ学習(Katz & Chard, 1989, 奥野訳, 小田監, 2004)を基本概念とし、本研究課題に挑んでいる。(研究2,3,5,6,7)本研究課題を追求するにあたり、研究方法は次の手順で進めている。

- ① 平成20年度に研究プロジェクトを教師・保護者・学識経験者で編成、研究内容計画を立てる。
- ② 「2008年度(平成20)横浜版学習指導要領」を参考に本園の幼稚園教育全体構造図を明確にする。
- ③ 幼稚園教育目標を実現するための具体的な目標を打ち出す。
- ④ 先行研究の調査方法を参考にし、4クラス男女計8名の観察対象者を決める。
- ⑤ 子どもの3年間の行動観察として前期・後期の5日間の記録をとる。
- ⑥ 園行事や主な活動内容は、基本的な生活習慣、運動会、七五三お茶会、生活発表会、お店やさんごっこ、田んぼの6つの内容を選ぶ。
- ⑦ 園行事や主な活動内容のトピック・ウェブ図は、3歳児、4歳児、5歳児の担当教師とフリー教師

が学年ごとに分かれてトピックに沿った話し合いを行い、網状図を描く。

- ⑧ 教師は、子どもの行動観察期間中の週案にエピソードを記述する。
- ⑨ 保護者の記録用紙を作成し、家庭における子どもの姿を保護者が記述する。
- ⑩ 近隣小学校交流を行い、入門期は幼稚園教師を小学校へ派遣する。
- ⑪ 園内教員研修を行い、教師のかかわりや捉え方の修正を行う。
- ⑫ 主な活動内容のトピック・ウェブ図を再度作成する。
- ⑬ 幼稚園幼児指導要録を仕上げ、小学校へ送る。

## 【分析】

- ① 子どもの行動観察記録と教師のエピソード記録は、幼稚園教育要領5領域のねらい及び内容との関係有無を教師間で話し合い、5領域のねらいと内容に分類・分析する。
- ② トピック・ウェブ図は、トピックから次の活動に進む際の網状につながる部分（展開や導き）を幼稚園教育要領の5領域：健康、人間関係、環境、言葉、表現におけるねらいと内容の関係有無を教師間で話し合う。各領域が示す3つのねらいと各領域が示す内容を具体的活動内容に照合する。活動内容と関係している各領域のねらい(1)(2)(3)と内容の番号を領域ごとに色分けした5色を使ってトピック・ウェブの線上に書き込む。達成度は、各領域内容を満たしている項目数と項目総数から%を示す。分析は、ウェブの形状、ねらいの数と領域内容が示す割合から、教師の指導の重点、幼稚園教育要領との関係、発達に即した指導を考察する。
- ③ 保護者の家庭における記録は、発達心理学の専門家によるデータ分析を行う。
- ④ 幼保小連携事業に関しては、前横浜市立富岡小学校校長からの分析を示す。

## 【期待される成果】

- ① 本園教師は、子どもの姿、教師のかかわり、園行事や主な活動内容を幼稚園教育要領のねらい及び内容に分類・分析ができる。
- ② 本園教師は、トピック・ウェブ図を作成することにより、自身の活動内容の展開や導きを反省することができ、幼稚園教師としての専門性が向上する。
- ③ 本園教師は、教員研修から子どものかかわりや捉え方を修正し、教育課程の具現化を図ることができる。
- ④ 本園教師は、教員研修を積み重ねるに従い、PDCA サイクルが身についていく。
- ⑤ 本園教師は、保護者の幼稚園教育理解により、幼稚園教師としての自覚が深まる。
- ⑥ 本園は、本園の教育全体構造を家庭及び公立小学校へ提示することができる。
- ⑦ 本研究から、幼小接続の教育課程編成が可能となり、スタートカリキュラム編成のきっかけを作ることができる。

## 2) 教育課程の特例

- ① 日常保育の活動に保護者（お助け mom）のサポートを導入し、支援を必要とする子どものかかわりや幼稚園教育理解の支援を保護者側から行う。
- ② 教師が子どもと十分にかかわれない時間に、保護者（絵本ママ）のサポートを導入し、絵本の読み聞かせの支援を行う。
- ③ 教師企画案の補充として保護者案を加え、夏季保育（オープンスクール）を教師と保護者と共に開催する。
- ⑤ 勤労感謝の日に、保護者支援者を園と園児が感謝の気持ちを絵画で表わす。
- ⑥ 一年間の田んぼの環境を保護者・担当教師が整備し、種もみ、代掻き、田植え、水やり、稲刈り、脱穀、精米、もちつきまでを教師担当者と共に活動する。

- ⑦イギリス人講師による HOME ENGLISH をクラスごとに親しみ、また 4 歳児からパソコンを使い、音の出る絵本などを楽しむ。

#### 4 研究内容

##### 1) 教育課程の内容

本園における教育課程は、年間カリキュラムとして三学年合同の園行事や年中行事を示し、さらに各学年が必要とする活動内容を工夫している。教師は月のねらいを立て、さらに具体的活動内容を示し、環境構成や子どもの経験活動、教師の援助配慮等を学年間で話し合い、前年度のカリキュラムと比較しながら反省・修正している。クラス担任は週案を立て、バランスよい活動内容を工夫し、子どもとのかかわりや導きを行っている。

特徴的な内容として、3歳児(年少)の場合は基本的生活習慣に活動の重点を置き、園外保育や園庭で遊び、初めての集団生活の環境に慣れる。4歳児(年中)の場合は三学期に行う「お店やさんごっこ」に重点を置き、「言葉」「人間関係」の領域を充実させる。5歳児(年長)の場合は園生活最後の総合的まとめとして、宿泊保育、梅漬け、運動会、生活発表会、卒園製作等の活動内容を充実させ、小学校との給食交流などを行い就学前の心の準備を図っている。

本園教育課程の具体的構造は、「2008年度(平成20)横浜版学習指導要領」(横浜市教育委員会、2008)を参考に、本園教育全体構造図として教師・保護者・他者に明示している。

##### 2) 研究の経過

	実施内容等
第1年次	<p>子どもの姿：3月生れの3歳児、男子4名、女子4名の計8名を対象に一学期と三学期の行動観察を記録。5日間の園生活から幼稚園教育要領五領域のねらい・内容と3歳児の達成度を分析。</p> <p>活動内容：三学年による行事内容のフロー、トピックウェブをもとに、3歳児の発達に即した活動内容を分析。</p> <p>教師：年少4クラスの担任4名による観察日の週のねらいと5日間の観察日の担任によるエピソード記録。</p> <p>保護者：対象者の保護者による子どもの成長記録を一学期、二学期、三学期ごとに記録。</p> <p>幼小連携：幼稚園・小学校教師の指導方法を知り、共通の導き方を見出す。</p> <p>指導方法：スーパーバイザー、運営委員会協議会等の意見、園長・校長評価等。</p>
第2年次	<p>1年次と同じ子どもとその保護者を対象とし、1年次と同じ内容の調査方法を用いた継続研究を行い、1年次との変化を追求する。</p> <p>子どもの姿：一学期・三学期の行動観察、保護者の記録、担任のエピソード記録。</p> <p>活動内容：トピックウェブと概念地図から幼稚園教育要領の4歳児達成度を分析。</p> <p>幼小連携：小学校教師の幼稚園カリキュラムの理解。</p>

	指導方法：スーパーバイザー、運営委員会協議会等の意見、園長・校長評価等。
第3年次	<p>3年間に於ける対象児の発達と成長、保護者の精神的な成長、担任の捉え方、本園の教育課程等と幼稚園教育要領の関係を明らかにする。</p> <p>子どもの姿：一学期・三学期の行動観察、保護者の記録、担任のエピソード記録。</p> <p>活動内容：トピックウェブと概念地図から幼稚園教育要領の5歳児達成度を分析。</p> <p>幼小連携：幼稚園カリキュラムとスタートカリキュラムの連携。</p> <p>指導方法：スーパーバイザー、運営委員会協議会等の意見、園長・校長評価等。</p>

### 3) 評価に関する取組

	評価方法等
第1年次	<p>1) <b>子どもの姿</b>・・・観察対象は年少児の4クラスより2・3月生れの男子1名、女子1名の合計8名である。観察期間は平成20年6月と平成21年2月の2回に分け、5日間の観察を行う。観察時間は9時45分～11時45分の二時間。観察内容は、園生活の様子、友達とのかかわり、先生とのかかわり、クラスでの行動や遊ぶ姿などを調査票Aに客観的に記述。観察票Bには5日間のまとめとして、遊びの場面（一人で、友達と、先生と）、学級全体、生活行動の場面に分類し、園生活の様子と遊びと学びの関係を考察する。観察票Aより、3歳児8名の5日間のエピソードを幼稚園教育要領の5領域のねらい・内容の項目に当てはまる事柄を見出し、抽出された項目数を領域の項目数で割り、%にして3歳児における幼稚園教育要領の5領域の達成度を分析。</p> <p>2) <b>活動内容</b>・・・①基本的な生活習慣、②運動会、③七五三のお茶会、④生活発表会、⑤おみやげさんごっこ、⑥栽培からもちつき大会までの田んぼのトピックウェブを作成する。トピックウェブから読み取れる活動内容を幼稚園教育要領のねらい・内容に分類し、年間を通した子どもの学びを考察する。</p> <p>3) <b>教師</b>・・・4学級4担任の観察日における週のねらいと5日間におけるエピソード記述から、幼稚園教育要領の5領域のねらい・内容の項目に当てはまる事柄を見出し、抽出された項目数を領域の項目数で割り、%にして幼稚園教育要領の5領域の達成度から教師の日々の捉え方を分析、幼稚園教師の役割を考察する。</p> <p>4) <b>保護者</b>・・・家庭における観察対象者の学期ごとの様子を保護者が記入する。保護者が表現した記述文を6項目（基本的な生活習慣の習得、身体の成長、ことばの発達、幼稚園での人間生活、幼稚園での学び、家庭での様子）に分類し、保護者から見た子どもの成長や幼稚園教育の理解を考察する。</p> <p>5) <b>幼小連携事業</b>・・・本園教師を公立小学校に派遣、入門期の実践指導を援助。</p> <p>以上から、3歳児における本園の教育課程の内容とその評価が明らかになり、幼稚園における3歳児の遊びと学びの関係が示唆できる。</p>

第2年次	1) 子どもの姿、2) 活動内容、3) 教師、4) 保護者等は第1年次と同様の研究方法を継続する。活動内容は、トピックウェブの表現方法を検討しながら、三学年の縦断・横断検討を行い、教育課程の重点内容を確認していく。5) 幼小連携事業は、小学校学習指導要領の解釈・理解に向けて、新たな研究方法を検討する。
第3年次	3年間、同様の研究方法を用い、1) 子どもの姿、2) 活動内容、3) 教師の捉え方、4) 保護者の子どもの見方や幼稚園教育の理解、5) 小学校教師の幼稚園カリキュラム理解と実践指導方法等を検討し、人間形成の基礎となる幼児期の成長過程から小学校へのスムーズな連携の方向性を示唆する。修正段階として、5歳児担当者のみ、幼稚園教育要領ねらい及び内容理解の再確認を行い、トピックウェブ図の修正と幼小接続を意識した教師のかかわりや導きを再認識させる。

## 5 研究開発の成果

### 1) 実施による効果

表(1)-1 子ども①(男)の達成度

		領域	健康	人間関係	環境	言葉	表現
3 歳 児	ねらい	前	(1)(2)	(1)(2)	(1)(2)	(1)(2)(3)	(1)(2)
		後	(1)(2)	(1)(2)	(1)(2)	(1)(2)	(1)(2)
	内容 (%)	前	90	77	45	60	80
		後	80	62	27	70	88
4 歳 児	ねらい	前	(1)(2)(3)	(1)(2)(3)	(1)(2)	(1)(2)	(2)
		後	(1)(2)(3)	(1)(2)(3)	(2)(3)	(1)(2)(3)	(2)(3)
	内容 (%)	前	40	77	36	80	75
		後	70	85	27	60	63
5 歳 児	ねらい	前	(2)(3)	(1)(3)	(1)	(1)(2)	(2)(3)
		後	(2)(3)	(2)(3)	(1)	(1)(2)(3)	(2)(3)
	内容 (%)	前	60	62	18	50	75
		後	60	46	18	60	37.5

表(1)-2 クラス全体の達成度

		領域	健康	人間関係	環境	言葉	表現
3 歳 児	ねらい	前	(1)(2)(3)	(1)(2)(3)	(1)(2)	(1)(2)(3)	(1)(2)(3)
		後	(1)(2)(3)	(1)(2)(3)	(1)(2)	(1)(2)(3)	(1)(2)(3)
	内容 (%)	前	67.5	63.4	31	64	57
		後	65	65	24	60.5	56
4 歳 児	ねらい	前	(1)(2)(3)	(1)(2)(3)	(1)(2)	(1)(2)(3)	(1)(2)(3)
		後	(1)(2)(3)	(1)(2)(3)	(2)(3)	(1)(2)(3)	(1)(2)(3)
	内容 (%)	前	60	75	27	67.5	69
		後	72.5	83	45	57.5	75
5 歳 児	ねらい	前	(1)(2)(3)	(1)(2)(3)	(1)(2)(3)	(1)(2)(3)	(1)(2)(3)
		後	(1)(2)(3)	(1)(2)(3)	(1)(2)(3)	(1)(2)(3)	(1)(2)(3)
	内容	前	65	79	48	59	59

	(%)	後	55	69	20	55	66
--	-----	---	----	----	----	----	----

表(1)-3 担任教師Aエピソードの達成度

	領域		健康	人間関係	環境	言葉	表現
年少	内容 (%)	前	10	23	18	20	0
		後	30	31	0	20	25
年中	内容 (%)	前	10	54	9	40	75
		後	40	85	64	70	75
年長	内容 (%)	前	50	62	36	40	50
		後	20	54	27	50	50

<エピソードの記述例>

<戸外遊び> 年長児が代掻きをしている様子を、子ども達は、すぐに発見し、“あっ！何かしてるよ！”と走り寄っていく。キャッキョッ言いながら田んぼの中を歩く年長さんを見て“ドロドロだあ〜”と笑って喜んでた。“ねえ先生これやるの？”と泣きそうになりながら聞いてくる子どもがいたので、年少組は見学のための事を伝えると、しばらく、じーっと代掻きの様子を見学していた。(年少・前期)

表(1)-4 トピック・ウェブ：基本的生活習慣の達成度

	領域	健康	人間関係	環境	言葉	表現
年少	ねらい	(1)(2)(3)	(1)(2)(3)	(2)	(1)(3)	(2)
	内容 (%)	90	77	73	70	25
年中	ねらい	(3)	(1)(2)(3)	無し	(1)(2)(3)	
	内容 (%)	40	31	45	60	13
年長	ねらい	(3)	(2)(3)	(2)(3)	(2)	無し
	内容 (%)	50	62	27	27	0

表(1)-5 トピック・ウェブ：運動会の達成度

	領域	健康	人間関係	環境	言葉	表現
年少	ねらい	(2)(3)	(2)(3)	(1)(2)	(1)	(3)
	内容 (%)	30	85	45	40	63
年中	ねらい	(1)(2)(3)	(1)(3)	(3)	(3)	(1)(2)
	内容 (%)	40	69	27	20	50
年長	ねらい	(1)(2)	(1)(2)(3)	(1)	(2)	(2)
	内容 (%)	30	54	36	30	50

表(1)-6 トピック・ウェブ：田んぼの達成度

	領域	健康	人間関係	環境	言葉	表現
年少	ねらい	(1)	(1)(2)	(1)(2)	(2)	(1)(2)
	内容 (%)	30	23	55	50	38
年中	ねらい	(1)	(1)(2)	(1)(2)	(2)	(1)(2)
	内容 (%)	40	69	90	64	50
年長	ねらい	(1)(2)	(1)(2)(3)	(1)(2)(3)	(1)	(2)
	内容 (%)	20	54	10	45	13

## 【幼稚園教育要領のねらい及び内容の達成度】

○子どもの姿：表(1)1-3で示す5日間の子どもの行動観察記録からは、観察者の記録からも幼稚園教育要領5領域のねらい及び内容が子どもやクラス全体に反映されていることが明らかである。また幼稚園教育を理解している教師の5日間のエピソード記録からも同様に5領域が反映されていた。つまり、幼稚園で過ごす子どもは、三年間の集団生活を通して、幼稚園教育要領のねらいや内容を達成し、幼児期における教育の基礎を培っていることがうかがえる。

○教師のかかわりや導き：表(1)4-6で示す行事や活動内容等のトピック・ウェブ図（紙面の都合上省略）からの幼稚園教育要領のねらい及び内容の達成度は、基本的な生活習慣のように、3歳児における教師のかかわりや導きが熱心に行われていることがうかがえ、図からも教師のかかわりや導きの複雑化から単純化が示され、子どもの自立への支援が明らかである。一方、運動会で示す達成度は、トピック・ウェブ図の単純化から複雑化が見られ、子どもの身体諸機能の発達に沿ったかかわりがうかがえ、数字の達成度と異なる分析結果が示されている。

○就学前のかかわりや導き：「田んぼ」の活動は、3学年が同じ日に同じ活動内容の三年間の繰り返してあり、一つのトピック・ウェブ図から3学年の教師のかかわりや導きの活動展開を示している。特に、5歳児の「環境」においては、ねらいは3つ含まれているが、内容は10%という達成度であり、教師のかかわりや導きの捉え方の修正を教員研修において試みている。

## 【保護者の幼稚園教育理解：専門家による分析】

### 分析方法および結果

記述内容に含まれる言葉の表現によって記述を分類した。質的調査法のグラウンデッド・セオリーの手法に基づいてカテゴリー分類した結果、次の3つに分かれた。3つの内容とはa. 子どもの特徴についての説明、b. 家庭での様子、c. 保護者の気持ちである。a、b、cの3つの上位カテゴリーについて、さらに保護者の記述を分類し、それぞれの上位カテゴリーについて下位カテゴリーを作成した。その後、各カテゴリーごとの記述数の比率の差についてコ克蘭のQ検定を実施した。その結果、下位カテゴリーすべてにおいて有意な差が見られた(表1)。(大家まゆみ、東京女子大学)

### 考察

本研究では、保護者と幼稚園の連携および幼小連携に焦点を当て、園児の3年間にわたる成長記録を分析し、幼稚園から小学校への移行期における幼稚園と保護者の連携のあり方を考察することが目的であった。表1のように、保護者の記述はa. 子どもの特徴についての説明、b. 家庭での様子、c. 保護者の気持ちに分類された。この3つの上位カテゴリーの各下位カテゴリーを幼稚園教育要領との関連から振り返りかえてみる。

まず保護者と幼稚園の連携については、保護者から見た子どもの登園時の泣きや園生活に慣れるまでの家庭での様子、きょうだいとのかかわり、家庭での過ごし方、習い事、お手伝い、長期の休みの過ごし方などは、幼稚園教育要領の5つのねらいと内容には明示されていない部分である。これらの点は、まさに家庭と幼稚園が連携しなければ浮かび上がってこない、子どもの家庭での様子である。

カテゴリー	幼稚園教育要領との関連	年少			年中			年長		
		1学期	2学期	3学期	1学期	2学期	3学期	1学期	2学期	3学期
a. 子どもの特徴についての説明										
1 性格・体質	健康2-(8)	29	10	13	29	7	1	14	8	19
2 基本的生活習慣	健康2-(5),(6),(7)	18	19	14	3	5	3	3	0	12
3 移行期における子どもの意識の変化										
年中になった自覚(年中)	指導計画作成上の留意事項1-(3)	—	—	—	20	0	0	—	—	—
年長になった自覚(年長)	指導計画作成上の留意事項1-(3)	—	—	—	—	—	—	30	—	—
小学校入学に期待	指導計画作成上の留意事項1-(3)	—	—	—	—	—	—	0	0	16
b. 家庭での様子										
1 園生活										
幼稚園が楽しい・大好き	指導計画作成上の留意事項1-(8)	32	43	42	16	29	23	16	19	16
登園時の泣き	指導計画作成上の留意事項1-(3)	34	6	1	3	1	1	0	0	0
園生活に慣れるにはまだ時間がかかる	指導計画作成上の留意事項1-(3)	9	0	0	15	2	1	2	1	0
新しい環境に戸惑っている	指導計画作成上の留意事項1-(3)	3	0	0	20	0	0	6	0	0
園生活に慣れた	指導計画作成上の留意事項1-(3)	5	21	5	3	9	3	3	2	0
行事が楽しい	環境2-(1),(2),(3),(4)	1	4	10	1	6	11	0	6	7
教師とのやりとり	健康2-(1),人間関係2-(1),言葉2-(1)	0	6	33	6	7	11	30	9	19
仲間関係										
新しいクラスの友だちの名前を聞いたことがない	健康2-(1),人間関係2-(6),(7),(9)	2	2	0	10	3	1	6	3	0
友だちの名前を覚えてくれる	健康2-(1),人間関係2-(6),(7),(9)	6	11	5	7	16	12	14	5	8
特定の仲の良い友だちができた	健康2-(1),人間関係2-(6),(7),(9)	0	8	16	1	12	13	4	7	14
色々な友だちと遊ぶようになった	健康2-(1),人間関係2-(6),(7),(9)	0	5	8	1	1	4	0	1	1
クラスの友だちと仲良くなった	健康2-(1),人間関係2-(6),(7),(9)	15	11	3	1	3	3	0	2	0
園での生活を家族に伝える										
園で習った歌を歌ってくれる	表現2-(6)	15	11	3	1	3	3	0	2	0
園での様子を話してくれる	言葉2-(1),(2),(4),表現2-(3)	13	32	28	7	29	16	9	16	5
運動会の練習を頑張っている	表現2-(4),(8)	0	13	0	0	16	5	0	14	7
お弁当	新幼稚園教育要領(平成12年より) 健康2-(4)	9	10	7	2	3	3	1	3	1
2 家庭での様子										
きょうだいとかかわり	指導計画作成上の留意事項1-(8)	19	8	12	13	16	13	18	8	8
家庭での過ごし方	指導計画作成上の留意事項1-(8)	8	13	9	16	26	30	26	23	21
自分のことは何でも自分でできる	人間関係2-(2),(3)	2	4	4	4	3	8	1	6	10
習い事	指導計画作成上の留意事項1-(8)	1	3	1	5	1	2	3	13	6
お手伝い	指導計画作成上の留意事項1-(8)	0	2	3	1	9	11	5	8	6
気持ちを言葉で表現することが苦手	言葉2-(1),(2),(3),(4),(5)	2	5	3	5	2	3	3	3	3
お絵かき・文字の読み書き・数字に興味を持つ	環境2-(8),(9),言葉2-(9),(10),表現2-(3),(4),(7)	2	8	11	6	10	23	9	15	23
長期の休みの過ごし方	指導計画作成上の留意事項1-(8)	0	7	0	0	5	9	3	30	4
c. 保護者の気持ち										
心配	指導計画作成上の留意事項1-(8)	16	7	6	6	10	10	6	4	10
成長を実感	指導計画作成上の留意事項1-(8)	10	26	56	16	35	42	40	41	54
毎日楽しく過ごしてほしい	健康2-(4),人間関係2-(1)	6	12	14	14	8	13	23	8	22
友だちを増やしたい・かかわりの中で学んでほしい	健康2-(1),人間関係2-(6),(7),(9),(11)	20	11	6	38	13	12	22	11	17
集団生活のルールを理解してほしい	人間関係2-(10)	3	4	0	0	0	0	0	0	1
あいさつができるように	言葉2-(8)	3	3	0	1	1	4	5	2	1
いい思い出を作してほしい	指導計画作成上の留意事項1-(8)	2	0	1	0	0	1	14	5	19
行事を楽しんでほしい	環境2-(1),(2),(3),(4)	0	7	1	0	8	11	2	18	9

一方、幼稚園教育要領「指導計画作成上の留意事項」の「1 一般的な留意事項」には「(3) 幼児の生活は、入園当初の一人一人の遊びや教師との触れ合いを通して幼稚園生活に親しみ、安定していく時期から、やがて友達同士で目的をもって幼稚園生活を展開し、深めていく時期などに至るまでの過程を様々に経ながら広げられていくものであることを考慮し、活動がそれぞれの時期にふさわしく展開されるようにすること。その際、入園当初、特に、3歳児の入園については、家庭との連携を緊密にし、生活のリズムや安全面に十分配慮すること」と示されている。本研究は3年間にわたる同一の子どもの縦断的成長記録を分析したものである。入園時の3歳の泣きが年少の2学期以降はほとんど見られなくなったことや、友だちとかかわりが各学年とも1学期には「新しいクラスの友だちの名前を聞いたことがない」状態から、2,3学期には「色々な友だちと遊ぶようになった」「クラスの友だちと仲良くなった」状態へと変化していく様子は、この留意事項の(3)の発達的変化を追跡的に実証したものである。

次に幼小の連携については、年少から年中、年中から年長、年長から小学校入学への移行期の子どもの気持ちの変化を縦断的に検討した。分析結果から、保護者の目から見て、子どもたちは年中、年長ともに1学期には学年が1つ上がった自覚を持っていること、また年長の3学期には小学校入学への期待を抱いていることがわかった。幼小の連携の基盤は、小学校と幼稚園が連携する他に、幼稚園の3年間に子どもたち自身が「自分は大きくなった」「おにいさん、おねえさんになった」という意識を持つようになっていく自己意識の発達も1つの要因であろう。幼小の連携について考える場合は、幼稚園から小学校の移行期における子どもの自己意識の変化にも注目する必要があるだろう。

## 【幼保小連携事業：小学校からの視点】

金沢区の幼保小教育交流事業のテーマ：「園生活から小学校生活における子どもの連続した発達を支援する」をもとに、推進地区として「育ちの連続性」を保障する幼保との接続を意識した小学校入門期のカリキュラムを完成させる研究に取り組んだ。（小峰みち子、前横浜市立富岡小学校校長）

### <1年生 入門期指導～スタートプログラムの実際>

「スタートカリキュラムの作成」の前段階として、入門期の指導計画の一部としての「スタートプログラム」を幼稚園と協力して工夫することにより、幼稚園（保育園）と小学校の相互の指導方法の理解を深めるとともに入学直後の子どもの学校生活に対する意欲を高める。

★スタートプログラムの目的・・・幼児期と児童期のスムーズな接続を目指す。

- ① 1年生が幼稚園・保育園生活から小学校生活にスムーズに移行できるように、京急幼稚園教諭による指導を取り入れ、また、学年全体での活動を通して集団行動に慣れ、学校での決まりの大切さに気づけるようにする。
- ② 学年全体での活動、級外教員による副担任制などを取り入れることにより、多くの目で児童を観察し、中でも特別な支援を要する児童の把握・理解に努める。
- ③ 各担任、副担任、養護教諭、栄養士などによる指導を学年全体で行うことにより、児童が担任だけではなく、たくさんの教師に見守られているという安心感をもてるようにしたり、担任以外の教師による指導・支援を抵抗なく受けとめられたりできるようにする。

### ★スタートプログラム 実施期間

学習面…入学2日目以降から2週間の間に京急幼稚園教諭来校（4日程度）

給食指導…4月中

### ★担当教職員

1年生担任、特別支援教育コーディネーター、算数少人数担当、国際教室担当、音楽専科、養護教諭、栄養士、京急幼稚園教諭

### ★実施の成果

#### <幼稚園教師の感想>

- ・1年生は他園を卒園した子どもが圧倒的に多いので、自分の指導がどこまで通じるか心配したが、工夫された活動であればどの子どもも意欲的に参加することがわかり指導に自信がもてた。
- ・机の前に座って一斉指導を受ける子どもの姿に、短期間の間に小学生としての意識の成長を見て取れたことに感動した。
- ・学校というところの雰囲気や直接味わえたことは、接続期を見据えた年長児の指導に見通しがもてた。

#### <小学校教師の感想>

- ・幼稚園教師の指導は、子どもの心に届く端的でわかりやすい言葉かけができていて、非常に参考になった。自分たちの指導を改善するためのよい手本として見習っていきたい。
- ・入学翌日からの学年全体の集団行動は無理だと思い込んでいたが、やや緊張感がある時期だからこそ子どもに学校での約束事が徹底でき、活動の目的をきちんと伝えることによって子どもは意欲的に大きな集団の中でも行動できていた。
- ・幼稚園教師に指導をしてもらっている間に客観的に子どもを観察することができ、子どもの特性を短期間で理解することができた。

## 2) 実施上の問題点と今後の課題

### A：研究上の問題

- ①教員の退職新採用に関する人事異動が不安定であり、研究方法や幼稚園教育要領理解の時間的ギャップが生じ、研究継続の困難さがうかがえる。
- ②幼保小連携事業の効果もあり、幼稚園・小学校教師の幼稚園教育要領や小学校学習指導要領の内容理解が増えているが、全国レベルの浸透には時間がかかる。
- ③研究データ処理に時間がかかり、また研究結果を現場教師に反映する機会が少なく、教師のかかわりや導きへの修正が対象園児に還元できない。

## B：今後の課題

平成22年11月11日付「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議」（文部科学省、2010）による報告書を踏まえ、幼稚園・保育園・小学校関係者の幼児教育における内容理解や関心度を高めていくことが必要である。

特に横浜市の場合は100%私立幼稚園であるために、国公立小学校への接続に関心を払い、近隣小学校における授業研究会に園長や教員が積極的に参加し、卒園後の子どもの成長や発達の連続性を実際に観察する。また小学校における授業内容に関連している幼稚園での遊びや学びの学習要素を見出し、教師のかかわりや導きに意図的意識的に反映させ、教師・保護者・子どもと共に就学前における心の準備をすることが大事である。

## 文献

- Katz, L. G., Chard, S. C. 1989 *Engaging children's minds : The project approach*. NJ: Ablex.
- カツ, リリアン&チャード, シルビア (奥野正義訳、小田 豊監修) 2004 子どもの心といきいきとかかわりあうプロジェクト・アプローチ 光生館
- 佐藤喜代 2010 聖和大学博士學位論文 「園づくりプロジェクト」によるカリキュラム開発の研究
- 横浜市教育委員会 2008 横浜市教育課程研究委員会 研究協議会 全体会資料

## 付記

- 研究1 平成14年度、15年度、16年度(2002, 2003, 2004) 国立教育政策研究所の「全国のかつ総合的な学力の実施に係る研究指定校」の給付を受けた研究。
- 研究2 平成13年度(2001)科学研究費補助金(奨励研究(B))、課題番号:13907028、研究課題:「幼稚園における教員教育:『園づくりプロジェクト』の実践を通して」の給付を受けた研究。
- 研究3 平成15年度(2003)科学研究費(奨励研究)、課題番号:15907019、研究課題:『保育者の専門性はどこで育つのか:「園づくりプロジェクト」の成果』の給付を受けた研究。
- 研究4 (1) 佐藤喜代・湯川秀樹・小田 豊 2005 地域の幼児教育機関としての幼稚園 乳幼児教育学研究 第14号 91-100.  
(2) Satoh, K., Oda, Y., & Yukawa, H. 2005 *What Japanese Kindergarten should be: A Study of the School Creation Project* 2005 PECERA July 15-18, Taipei, TAIWAN で発表。
- 研究5 平成18年度(2006)科学研究費(奨励研究)、課題番号:18906064、研究課題:『新たな「園づくりプロジェクト」への挑戦:幼稚園教師の意識変革』の給付を受けた研究。
- 研究6 平成19年度(2007)私立大学等経常費補助金(私立高等学校等経費補助(教育改革モデル事業)):「センター活動による保育実践」の給付を受けた研究。
- 研究7 佐藤喜代・中村亜紗子・武田俊昭 2007 「お店やさんごっこによる実践研究」-日本式プロジェクトアプローチ 聖和大学論集 第35号 A 63-74.